

今回は、創立50周年を昨2018年に迎えた島根県浜田市金城町波佐の『西中国山地民具を守る会』の足跡とその活動の具体的な実践を会長・隅田正三氏に、国指定重要有形民俗文化財の山村生産用具、中でも紙漉き用具を中心に会員・北村春香氏にその製法と道具を紹介していただく。

民具、民俗研究の目的は、現在を生きる住民が自らの手で、地域の過去を知り、未来に活かしていくことだが、その実践はなかなかできない。守る会は、高度成長期に見捨てられ置き去りにされていく民具を「一家一点提供運動」で収集し、「子々孫々まで大切に残す」と記録・整理し民俗資料館を立ち上げた。民具を实际使ったの花田植の農作業復元など、学校児童、古老たちに新たな発見や回想の機会としての活用を志向している。近接する歴史民俗資料館には、貴重なたたら製鉄関連資料、明治期にチベット入境を試みた能海寛の資料も収蔵されている。

地域創生が叫ばれる今日、山陰の山村での住民主体の実践民俗学の活動報告に、是非耳を傾けてほしい。